



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 障害者本人から学ぶデザイン                                                               |
| Author(s)    | 工藤, 真生                                                                      |
| Citation     | デザイン理論. 2022, 79, p. 82-82                                                  |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/86325">https://doi.org/10.18910/86325</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

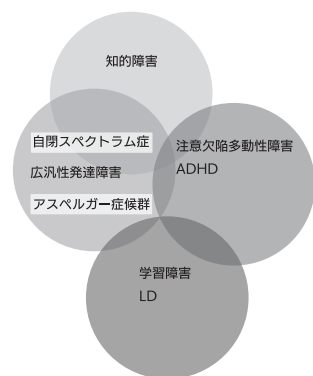
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 障害者本人から学ぶデザイン

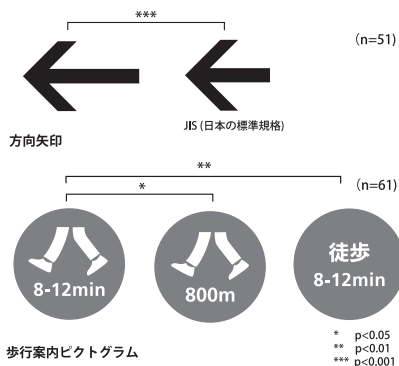
工藤 真生 九州大学大学院 芸術工学研究院

2017 年改訂 JIS（日本産業規格）標準案内用図記号ピクトグラムの理解度調査では、一般と同じ調査方法が障害者に実施された。その結果調査に参加した障害者 121 名中 20 名しか全調査に答えられず、結果が参考扱いとされ、一般のデータに含まれなかった。ピクトグラムという代表的な公共デザインですら、障害を有する当事者の意見を踏まえる意識、調査方法が未発達である現状がある。あわせてデザイナーの考える「やさしさ」「わかりやすさ」が、障害を有する人にとって、「やさしく」「わかりやすい」のかは、常に疑問であり、多様性を包摂する現代においては、当事者の意見を丁寧に聞き取り、デザインに取り入れる姿勢がより一層求められる。本報告では、2001 年 WHO が採択した ICF による障害の捉え方の改定により、明確になった環境因子としてのデザインの目的と役割を明示した。すなわち、デザインの違いによってその人の活動や参加などの生活機能、健康状態は影響を受けることを述べた。



note：知的障害と発達障害にも共通部分と異なる部分で多様性がある。それぞれの意思を丁寧に汲み取っていくことが、障害がない人にも共通するニーズを明らかにすることにつながる。

また知的障害者を対象に行ったピクトグラム・サインの調査や実施事例、現在取り組んでいる FINA 世界水泳 2022 福岡サイン&ピクトグラム UD（ユニバーサルデザイン）プロジェクト、成人の知的障害や自閉スペクトラム症を有する人を対象としたピクトグラムの理解度調査の方法や結果について紹介をした。これまでの研究の過程から、障害者に「わかりやすい」ことは、障害がない人にも「わかりやすい」ことが明らかになっている。多様性の包摂は、デザインの実装やその過程においてコスト面でのデメリットが目立ちがちだが、波及効果として結果的に多くの人にメリットをもたらす。また、障害特性を踏まえた配慮を考慮することで、障害を有する人の意見を聞き取り、デザインに取り入れることは可能である。しかし、専門性が必要であると同時に、専門分野を跨ぐ、学際的な仕組みからデザインをつくり上げる必要がある。研究成果としてのデザインの実装に、継続して取り組んでいきたい。



note：FINA 世界水泳 2022 福岡サイン & ピクトグラム UD プロジェクトの調査では、「方向矢印」として、JIS よりも軸が 150%長い方が、有意に方向性がわかりやすいこと、また「歩行案内ピクトグラム」は、時間の表記が距離の表記よりも、ピクトグラムの方が文字表記よりも有意にわかりやすいことが明らかになった。